

みなとMOIOMACHIケンチクさんぽ vol.31

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

どちらかというとモザイク画のような乙仲通り界隈

2014年に栄町でコーヒーショップを開業してからもう少して10年になりますが、学生時代(2000年前後)の印象、社会人～開業前の印象、開業後の10年間での印象、それぞれみなと元町への印象というのは、変化してきました。穴場エリアとして感じていた学生時代、商圈と居住区が混ざった趣の感じられる印象、モザイク画のような複雑さのある印象といった感じでしょうか。

初めに少し自己紹介をさせていただきませう。大学卒業後、4年間金融機関に勤務した後、1年半ほど海外で時間を過ごし、帰国後にコーヒーショップを開業しました。当初より、事業を始めるのであれば地域に何らかの形で貢献したいという思いがありましたし、まちづくりには興味がありました。開業1年目(2014~2015年)にちょうど神戸松蔭女子学院大学の米原先生のゼミが卒業制作の発表会を乙仲通りの一店舗で開催していたのが始まりでした。そこから乙仲さんぽが始まり、多くの建築家の方々のご意見や街の見方、学生たちの新鮮な発想などに触れ、私自身も街への見方が整理されてきたように感じています。

遡ること20年ほど、私が学生の頃、お洒落なエリアはトアウエストでした。お洒落な古着屋、雑貨屋などが軒を連ね、小さなエリアではありますが、歩くのが楽しいエリアでした。時折、栄町エリアにも足を運んでいましたが、ほぼ決まったお店に行っていたように記憶しています。印象としては、個性的なカフェ

のある不思議なエリアという印象です。おそらく一般的な学生にとっては、居住エリアなのか、商業エリアなのか、何のためのエリアなのかピンと来ていなかったのでしょう。友人からも『あの辺りは何があるの?』とよく聞かれたのは覚えています。

その後、海外へ行くようになり、徐々に建築物やまちの構造などにも興味がわきはじめてからは、乙仲通り界隈への見方が少しずつ変わってきました。レトロで重要文化財に認定されている歴史的建造物が点在していたり、錆びついた鉄格子のある古いビルがあったり、一言では表せませんが、ある種の情緒あるエリアという印象が変わっていききました。ただ、今まで見てきた海外でこの乙仲通りと似た印象があるのは、(多くの方がいうように)パリのマレ地区、ミラノのナビリオグランデ運河界隈など、どれも街が形作られた当初の用途から様変わりしながらも、従来の建築物を再活用しながら新たなエリアとしての地位を確立している個性的なエリアから感じました。その二つのエリアは欧州ならではのですが、建築物の雰囲気やエリアとしての統一感はもちろんあります。しかし、一歩建物内部に入った際のお店の個性や路地裏の散策に心躍らされるワクワク感がありました。ワクワク感を生み出すのは各ショップの魅力ですが、路地裏でも事業が継続できるエリアとしての魅力や集客力があるということの裏返しなのかも知れません。ショップが1階部分に集められ、住居、事務所は2階以上に集められ、コインパーキングのない視覚的な賑わいは街としても見ていて気持ちがいいです。乙仲通りで実現するの

はなかなか難しそうですが。

事業を始めてもう少して10年。2015年から始まったJIA兵庫地域会の建築家の方々を中心とした乙仲通り界隈プロジェクトでは、定例会を私の店舗で開催いただくことも多く、専門家の方々の意見を興味深く拝聴していました。また、学生を交えたワークショップや成果物のパネル展示などでも継続して関わらせていただき、この地域で事業を営むものとして、実現したいことや魅力的ではあるけれど、現実的には難しそうなもの、様々なアイデアを見るにつれて、まちづくりの難しさを改めて感じるとても貴重な体験でした。2016年度ワークショップの最終パネル展示には、神戸市の久元市長も見に来られるなど、うれしい一幕もありました。しかし、アイデアを実現するのはやはり難しく、みなと元町エリアは他の地域同様に店舗やビルの新陳代謝とも云うべく移り変わりを経ながら、今も個性的な店舗、ビル群によって成り立っています。

10年前に比べると人通りは増えてきているのは街としてうれしいことですが、近年ではメリケンパークがきれいになったことによって人々は海側へ足が向いているように感じています。神戸市の掲げるウォーターフロントの活用という意味では、成果が上がっている表れなのかなと思います。

乙仲通り界隈を総合的に考えると、居住エリア、商業エリアの垣根のないエリアとしての様相は見えますが、近づいてみると、やっぱり10年たった今でも街の雰囲気は未だ混沌としたもので、それが乙仲通り界隈ということなのかも知れません。



神戸市中央区の中での乙仲通り界隈とは

神戸市として、乙仲通り界隈にどのような役割、機能を期待しているのか。神戸市中央区には、北野、磯上、居留地、トアウエスト、花隈、栄町など、区切れる単位で特徴的なエリアがあります。それぞれをどのように位置づけているのか気になります。従前より、人口流出が神戸の課題として挙がっていますが、“魅力のある町”と“魅力的

な仕事のある町”は異なりますし、移住者を増やす試みに即効性はありません。であれば、毎年まとまって神戸への流入と流出をもたらしている学生をいかに神戸にとどめるのかなのかと。魅力的な仕事が神戸にあればとどまる学生は増えますし、魅力的な企業を誘致できるのは行政か。そして、移住者へのサポートができるのもまた行政の機能。乙仲通り界隈のコインパーキングや崩れ落ちそうなビル跡地に、街の景観を損なわずに地域を象徴するような興味深いオフィス



パリのマレ地区



ミラノのナビリオグランデ運河界隈

ビルができれば、もう少し乙仲通り界隈の立ち位置もしっかりしてくるのかと。まだまだ変化の余地のある地域ならではの面白みを期待しているここ数年です。



梅谷 周平 (うめたに しゅうへい)
合同会社ROUND POINT 代表
/ 趣味 コーヒー、旅行、写真